

## 【ゼロカーボンによる広域防災連携推進会議概要】

### 1. 設立経緯

- 近年、地球温暖化による異常気象が地球規模で度々発生しており、日本においては、今年の夏、例年にも増して記録的な「酷暑」となり、私たちの生活に大きな影響を与えているほか、スーパー台風の上陸や災害の広域化・激甚化が顕著となっている。
- 大熊町においては、東日本大震災とこれに続く東京電力福島第一原子力発電所事故により全町避難を経験
- 2021年2月に策定した「大熊町ゼロカーボンビジョン」において、「2040年までのゼロカーボン達成」を町の目標としており、この目標達成に向け、再生可能エネルギーの地産地消を始め、次世代交通の普及等をロードマップに位置付け
- EV(電動車)やFCV(燃料電池自動車)等の次世代自動車の持つ「蓄電機能」というメリットを活用し、さらなる普及促進・ネットワーク化によるゼロカーボンの実現と災害時のレジリエンス強化を図ることを目的に、地域、自治体等を越えた広域防災ネットワークの構築を目指すものです。

### 2. 推進会議の目指すもの

- 会員である福島県内等の地方公共団体、民間企業等が共同で推進会議を設置し、継続的な運営を図る。
- ゼロカーボンの実現に向け、再エネの最大限の導入
- ZEV及び充放電設備等の普及及びネットワーク化等の促進
- 災害時等における、ZEV等の持つ蓄電池機能を活用した広域的な電力供給支援体制の構築
- その他福島県特有の課題等を共有し、課題解決に資する具体的な取り組み

### 3. 会員の役割等

- 地方公共団体においては、それぞれの地域におけるゼロカーボンの実現に向けた再エネの最大限の導入やZEV、充放電設備等の普及及びネットワーク化等の促進
- 企業等においては、地域におけるゼロカーボンの実現に資するそれぞれが持つ共有可能な知見等の提供
- 災害時等におけるZEV等の持つ蓄電池機能を活用した広域的な電力供給支援体制の構築に向けた協力・支援等
- その他、福島県特有の課題等の解決に資する主体的・具体的な取り組み